

文学体験を軸にした「故郷」の授業実践

― 言語活動を豊かにする学習過程の検討 ―

岡本 恵里香 ・ 山元 隆春* ・ 高橋 茉由**

1. はじめに

広島大学附属東雲小学校・中学校では小中9か年の学びの連続性を重視し、国語科として本年度は、自分と向き合い豊かに言葉を紡ぎ出す「文学の読み」の授業づくり-「国語科本来の魅力」に迫るための「教師の資質能力」に着目して-というテーマで、文学の授業づくりの研究を行った。本稿では、令和6年度東雲教育研究会で実践した「故郷」の授業について報告する。

2. 教材としての「故郷」

「故郷」は令和7年度改定の教科書にも全社掲載されており、長く扱われるいわゆる定番教材と呼ばれている。多くの優れた実践がある一方、生徒からは「難しい」「内容が重い」と言われる教材でもある。今年度、生徒にアンケートを取ったところ、本校でも「やや難しい」「とても難しい」と感じている生徒が92.5%いた。図1、図2にあるように、言葉が難しい、回想が多くて時系列が分かり難いといった国語科で育てる力の部分、登場人物の気持ちが分かり難い、最後の部分の「道」が何を表しているか全くわからないといった心情読解や抽象表現の理解という国語の力と生徒の個性による部分、中国文化が分からないといった教養的な部分、様々な面で生徒に難しさを感じさせやすい教材だと言えるだろう。

Q2 Q1の理由は？当てはまるものを選択してください。（言葉・内容）

40件の回答

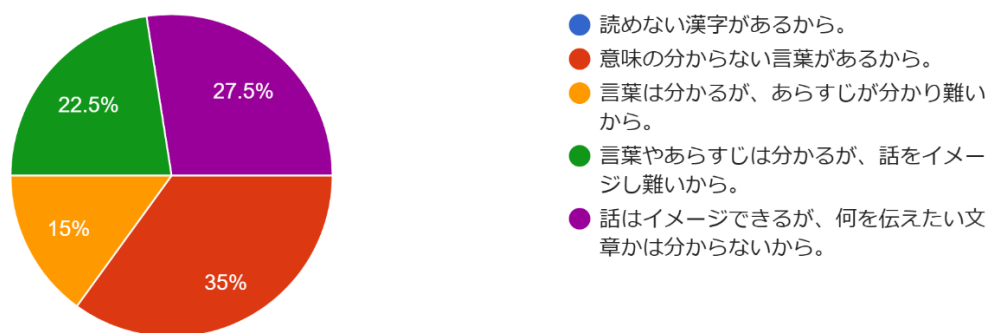


図1 難しいと答えた理由

* 広島大学大学院人間社会科学研究科 ** 秋田大学教育文化学部

Erika OKAMOTO, Takaharu YAMAMOTO, Mayu Takahashi

Practice of teaching "Hometown" based on literary experience :

Examination of the learning process that enriches language activities.

Q3 「故郷」を読んで難しいと感じる原因を、全て選択してください。

40 件の回答

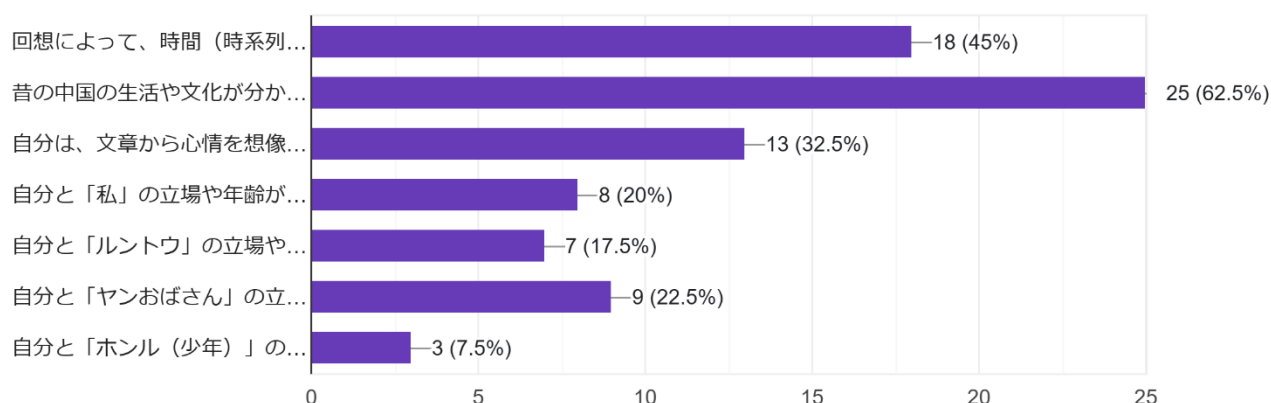


図2 難しく感じる原因

なお、アンケートの選択肢は、次の通りである。回想によって、時間（時系列）が行ったり来たりするから。昔の中国の生活や文化が分からないから。自分は、文章から心情を想像するのが難しいから。自分と「私」の立場や年齢が違って、心情を想像しにくいから。自分と「ルントウ」の立場や年齢が違って、心情を想像しにくいから。自分と「ヤンおばさん」の立場や年齢が違って、心情を想像しにくいから。自分と「ホンル（少年）」の立場や年齢が違って、心情を想像しにくいから。

魯迅が書いた原作の「故郷」は、1921 年雑誌『青年』に発表され、1923 年に魯迅最初の小説集『呐喊』に収録されている。1930 年代には井上紅梅や佐藤春雄が翻訳したものが、今は青空文庫で公開されており、教科書では竹内好訳が掲載されている。100 年前に中国で書かれた小説の翻訳を、現代の中学生が読む意義は何か。「故郷」が教科書に採択され始めた戦後や、多くの教科書会社が採択した高度経済成長期と重ねてみると、変化の激しい時代が「もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になる。」という言葉を感じていたように感じる。魯迅は『呐喊』の「自序」の中で当時の中国の社会体制を「鉄の部屋」と呼び、「窓はひとつもないし、こわすことも絶対にできんのだ。なかには熟眠している人間がおおぜいいる。まもなく窒息死してしまうだろう。」と述べている。既存の社会に熟眠した人間を起こす文章としての「故郷」の役割を生徒が掴めたなら、高校進学を前にして文学の力を意識したり中学校 3 年生として社会的な視座を拓いたりすることができる教材だと考える。

3. 「故郷」の授業づくり

生徒たちは、語り手が一人称の小説として 1 年次に「少年の日の思い出」、3 年次に「握手」の学習をしており、一人称の語り手の捉えによって語られ方や読者である私達の印象が変わることを学んできた。作者と主人公が酷似していても実は違いがあり、そこに文学の虚構性があることを学習の積み重ねによって理解できている。しかし、一人称の語り手が捉えていない、語っていない部分があることは理解できても、それを補ったり、語り手のフィルターを修正したり、語り手像を構築するのは難しい生徒が多い。そのため、集団や生徒個々の発達段階をふまえて「語り手」の授業での扱いを吟味し、柔軟に対応したいと考えた。また、2 年次の「走れメロス」以降、3 年次の「握手」でも、登場人物の立場に立って作品世界を捉えるという文学体験を積み重ね、作者に関する文章を読むことによって自己の読みをより確かなものにしてきた。その反面、「自分は登場人物の心情を想像するのは苦手だ」と感じている生徒が 3 分の 1 程度いた。また、アンケートで明らかになった「故郷」に内在する難しさを、いわゆる読解力の高低に関わらず感じているため、留意して単元構成をする必要があった。なお、本稿での「文学体験」は、高橋 (2023) が述べる「読者は、生身の読者から分身し、文学作品の世界に参加する。そして、

読者は作品世界の入子型重層構造に配置してある人物の「立場に立つ」ことで、複合的に他者の「立場に立つ」学習活動とする。まず、文学体験を軸とした豊かな読みを目指すには言葉の理解が欠かせないと考える。そのため、意味調べをして共同編集で「故郷辞典」を作り、学習のゴールイメージを共有することや作者について知ることを0次として設定した。テキストを丁寧に確かに読む授業を1次として展開し、その後に第2次として豊かな物語世界を表出する言語活動を設定することが、特に難しさを感じる生徒の言葉と読みを豊かにする学習過程として有効だと考える。

第1次では、読解に難しさを感じる生徒も内容を理解するために、教科書をグループで音読して、読解のキーワードを〔 〕内に書く活動を繰り返した。それによって、生徒がキーワードを探そうと何度も自ら本文を読み、キーワードが合っていると「できた」という感覚をもつことが、単元のはじめにできる。また、ヤンおばさんとの再会の場面とルントウとの再会の場面は、本文を元に人物とセリフを書いた脚本を教師が示し、生徒はそのセリフに合った口調、動作、心情を考えト書きを書いた。配役を決めてセリフを読み、演じることで、自然と登場人物の心情や人物像を考え表現することをねらった。このように脚本を書き、即興で演じることで、読解が難しいと構え過ぎることなく、自分なりに人物を捉えて物語を楽しむことが可能になると考える。

第2次では、他者の立場に立つ活動として、魯迅としてインタビューに答える活動と、登場人物を選んであとがきを書く活動の二つを設定した。その際、登場人物の心情を想像することが苦手な生徒への支援として、着目する観点を複数示した。

本単元の目標を、以下のように設定した。

- (1) 文章中のわからない言葉をメモして調べ、言葉や知識を豊かにすることができる。
- (2) 語り手の表現に着目して、語り手の語る内容や語り方とその理由を考えることができる。
- (3) 自分が設定した目標の達成に向けて、主体的に考え他者の意見から読みを深めようとする。

単元の流れは、以下の通りである。なお、本校は光村図書の教科書を採択している。

次	時	学習内容
0	1	便覧で魯迅を調べる。言葉や中国文化について調べたこと、初読でとらえた人物像や心情をスプレッドシートに入力して学年で共有する。
1	2	既習教材の一人称の語り手の特徴を思い出し、「私」との共通点を考える。 「私」の置かれた状況や人物像を考える。(教科書始め～P99)
	3	ヤンおばさんの言動から支配者層に対する想いを考える。ヤンおばさんの描写から「私」の人物像を考える。(教科書 P103・17 行目～P105・16 行目)
	4	記憶の中のルントウと、「私」の想いを考える。(教科書 P100～103・16 行目)
	5	現在のルントウに対する語り方から、「私」の想いや人物像を考える。 香炉と燭台に着目し偶像崇拜についてイメージする。(教科書 P105・17 行目～109・7 行目)
	6	登場人物の人物像や心情を想像するため3人芝居をし、その後関係性の変化の理由を考える。 ホンルとシュエーションの関係と「私」とルントウの関係に着目し、「希望」が何を表すか考える。(教科書 P109・8 行目～終わり)
	7	魯迅の書いた「自序」を読んで考えを深める。「地上の道」が何を表すか考える。
2	7	タブレットを使って自分の問いを他者と共有し、読みを深める。
	8	魯迅が今の社会をどう見るかを考えるため、魯迅になりきってインタビューに答える。 ルントウ、ヤンおばさん、母、ホンルの中から選び、その立場に立って「故郷」のあとがきを書く。

図3 単元の流れ

4. 言語活動①「魯迅にインタビューしよう」

「魯迅にインタビュー」をするという言語活動は、山元隆春氏に指導をいただいた際の「魯迅が今の社会を見たら、何と言うでしょうね。」という言葉から着想し、典型化をねらって設定した。

書き手が誰に向けて何を伝えたい文章なのかを考えたり、文章を起点に社会や自分の在り方を考え表現させたりすることを意識して、筆者は日頃から実践をしている。単元末の言語活動として、小論文の形や「作者は何を伝えたかったか」という問いでは、生徒が表面しか読めておらず自らの考えがなくても、正解らしいことが書けてしまう。また、便覧には「文芸による中国国民の精神改造を推進」という記載があるため、これを引用しただけの表現を避けたかった。生徒が自分で考えるしかない問いであり、「魯迅なら何て言うだろう。」と想像させる表現形式として「魯迅にインタビュー」を設定した。ワークシートの右には、イラストの学生の吹き出しの中に、以下の文を載せた。「こんにちは。魯迅さんが1921年に書いた『故郷』の訳を授業で読みました。今の社会について、魯迅さんの考えを教えてください。中国に詳しくないので、日本国内のことや世界全体のことをお願いします。魯迅さんは1902年から1909年まで、日本に留学されていますね。百年ちょっと経った、今の社会に対して、どう感じますか。」その左に魯迅のイラストと吹き出しを載せ、話し言葉で表現するよう指示した。

その結果、生徒が借り物の言葉で表現することなく、自分の内にある言葉で魯迅として語ることができた。そのいっぽう内容面は個人の想像力によって大きな差があり、中には「今はスマホがあって便利ですね。」のような内容しか書いていない生徒もいた。授業の中で「社会のあり方」をもっと強調した方が良かったと反省している。

故郷 ③ 三年（こ）組

⑦はスプレッドシートで読書会（自分の問いと、みんなの考えの交流）

【活動】 魯迅にインタビューしよう

こんにちは。魯迅さんが一九二一年に書いた「故郷」の訳を授業で読みました。今の社会について、魯迅さんの考えを教えてください。中国に詳しくないので、日本国内のことや世界全体のことをお願いします。魯迅さんは一九〇二年から一九〇九年まで、日本に留学されていますね。百年ちょっと経った、今の社会に対して、どう感じますか。

昔の中国に比べたら、マシになったと聞きます。

実際、私や私のような、社会に批判を持つ人たちが、作品や活動を通して社会を少しづつ変化させてきました。

しかしそれは、日本イの事です。日本では表現の自由はあっても、理不尽な逮捕も禁止されている。でも世界に目を向ければ、一つの思想を強制している国、理不尽な逮捕が当たり前になっている国もまだある。そんな国々では、私が故郷で表現した人々の苦しみは、未だたくさんあるでしょう。

ですから、まだ、あきらめるべきだと思います。

私のように、一歩を踏み出す人が増え、道が作られつつある今、自分の周りだけでなく、国、世界、ともに、広い視野を持つことが、あなたたちも希望への道を、作る一歩手となつてほしいと思います。






図4 生徒のワークシート

図4の生徒のワークシートのように、「故郷」の読みから社会に広く繋げて考えることを今回は目指した。「故郷」の実践として、社会に広げ過ぎていると感じる場合もあるだろう。しかし、本年度は「故郷」までに、他の教材で社会について考え表現する活動を多く実施し、生徒が変容した成果であると筆者は考えている。具体的には、「握手」では、「ルロイ修道士を偲ぶ会のスピーチ原稿」という言語活動によって、児童養護施設で育った「私」の考えや心情を考え表現した。「論語」では、社会科の教員と連携して「自分たちの身の回りにある論語の影響」を数多く挙げる活動をし、言葉が社会に影響を与えることに気づいた。「説得力のある構成を考えよう」では、テーマを「社会問題」に設定して情報の信憑性に留意して情報収集をし、中学生にも実行可能な改善方法を提案するスピーチ大会を行った。今年度は、「わたしを束ねないで」と「誰かの代わりに」を、「故郷」の前に学習している。「わたしを束ねないで」では、決めつけやジェンダーに抗う社会性のある詩だと生徒が気づき、スピーチ大会で使用した資料を再度使って「社会に訴える詩の創作」を行った。「誰かの代わりに」は抽象的な文章であるが、道徳の「避難所運営」の学習で具体の一つを知った後に、鷺田の言う「インターディペンデンス（支え合い）」について自分がどう考えるか、何ができるかを考えた。このように、「社会と繋げる」という学習者側の文脈があった。

本学年の生徒は特に、課題に対して深く思考し、自己の考えを言語化し伝えようとする姿勢が高く、また自分と異なる考え方や反対の意見であっても、対立や排除ではなく他者の思考の多様性を受け入れるように聴く習慣がある。自身の捉えや考えを安心して表現している姿が、道徳や学活、総合でもある。2年次にこのような姿であったため、今年度は思考を「自分」から「社会」に広げることができると考えて取り組んだ。その結果、「この学年は深く考えて、鋭い意見や個性的な意見もたくさん出てくる」と他教科の教員からも聞いた。高校の古典の指導では、古典常識や時代背景といった社会に関わることも指導するが、中学校の国語の授業で社会を語って良いのか迷うが、「社会の課題・問題・状況に対して、自分自身で感じ捉え、考えて言語化していく力」も国語の力の一部だと考えている。生徒は小論文で「大人にちゃんとしてほしい」という内容をよく書く。しかし、自分と違う魯迅という思想家、活動家になることによって、「魯迅としての自分にできることは何か」という思考が多くのワークシートからうかがえた。中学校段階から他者の立場から社会を捉えて言語化し表現することは、自分事として捉え表現しやすい方法として有効ではないだろうか。また、話し言葉や詩といった比較的やさしい形で表出することは、高校生になって小論文を書く際の抵抗感を抑える効果もあるのではないだろうか。その反面、高橋菜由氏から「この言語活動は、学習者の現実世界、日常生活と物語世界をつなげる意図がある反面、虚構世界を深く体験したことから切り離されて、表面的な言語化にとどまってしまう性質もある。」という助言を受けた。「文学体験」を生かす学習内容と流れの設定、問いの言葉が重要だと考える。

図5は、「魯迅にインタビューしよう」までの学習のイメージである。「故郷」本文だけを読んだ生徒と作品との距離は遠く、両者の壁は色濃くある。いわゆる、難しい、分からない状態だ。キーワードを探しながら①教科書をじっくり読むこと、それに加えて便覧、魯迅の「自序」、学習まんがの『中国の歴史』といった追加教材を読むことによって、②魯迅について知り、③作品の背景を理解していく。作者や作品の背景を理解するにつれて、④「読み手が生きる世界」との相違点ばかりではなく共通点も見えるようになり、より深く文学を読むことを可能にすると考える。また、文学を読むことによって現実世界を相対化し、新たな認識を生むことも可能である。生徒の中に、自分なりの魯迅像や社会の在り方が生まれてきた後に、魯迅としてインタビューに答えるという形で表出することをねらった。つまり、インタビューという言語活動をすれば良いのではなく、①教科書、②作者、③作品の背景、④読み手が生きる世界という順で、自己に深く近づける学習過程を経た上での、表出が重要だと考える。

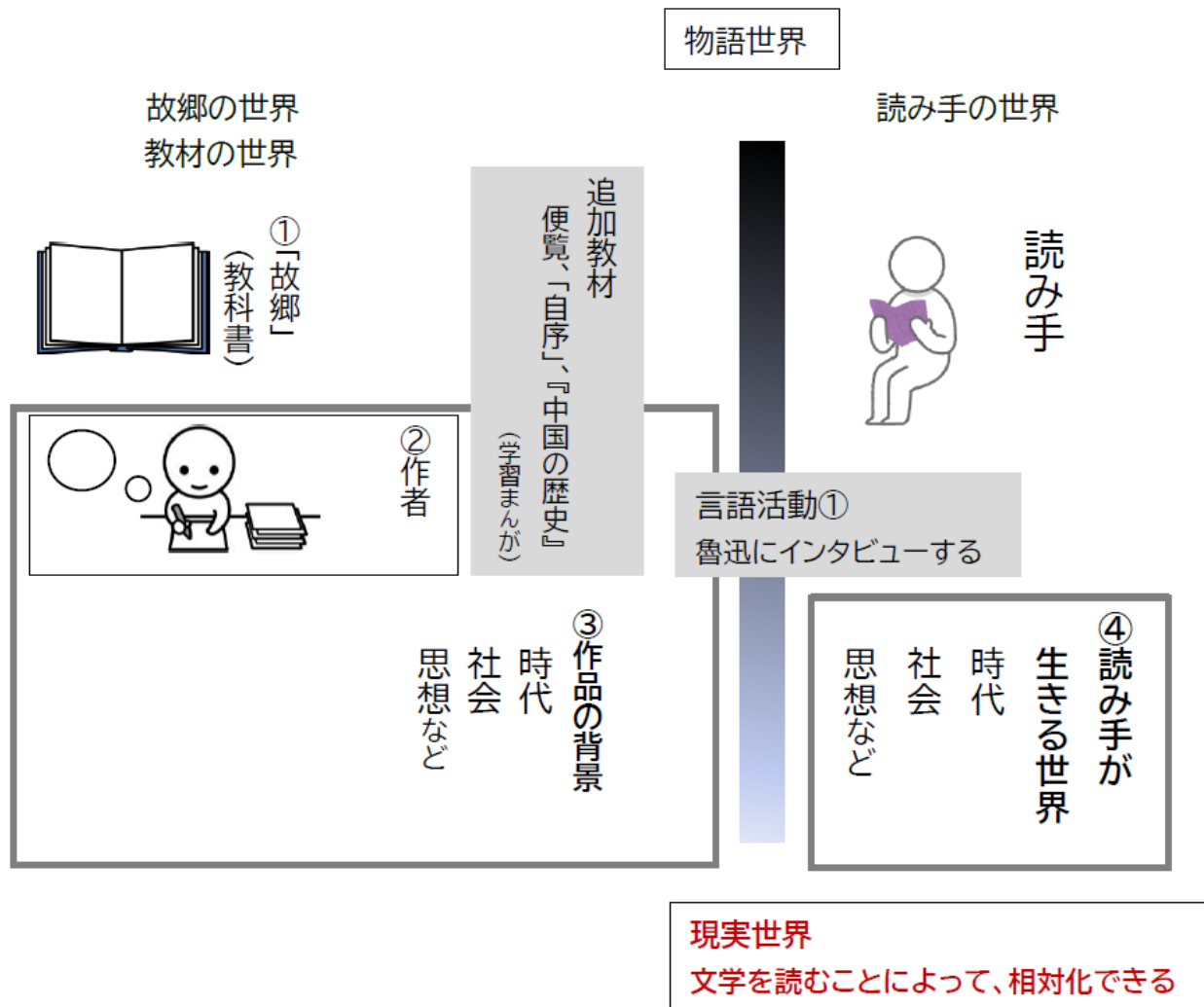


図5 「魯迅にインタビューしよう」までの学習のイメージ

5. 言語活動②「登場人物を選んであとがきを書こう」

言語活動①「魯迅にインタビューしよう」は、今の社会を自分の目で捉えて、自己の考えが出てくる活動であるため、最後に本文、作品世界に戻すためにあとがきを書く言語活動を設定した。そのため、ワークシートには、以下のような指示を明記した。2年次の「走れメロス」の学習の際に、『斜陽・人間

①登場人物の立場に立って「故郷」のあとがきを書く。

ルントウ・ヤンおばさん・母・ホンルの中から選ぶ。

☆本の「あとがき」を書くポイント

- ・この作品が生まれた背景（時代・出来事・エピソードなど）
- ・作者の想い・考え
- ・読者へのメッセージ

★作者以外の人々が、あとがきを書く場合のポイント

- ・当時の作者は、どんな様子だったか。
- ・自分の印象に残っている叙述（本文）と、どう感じたか。
- ・この作品全体をどう感じたか。

失格 新潮現代文学 20』にある津島美知子のあとがきを読んでいるため、そのイメージを共有した。

以下に、生徒が書いたヤンおばさん、ホンル、母の立場のあとがきを挙げる。

「ヤンおばさん」の立場

ヤンおばさんの弁明

三年（二）組

て	あ	で	に	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
見る	あ	き	な	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
目	あ	た	た	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
が	し		た	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
ない	の	描	意	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
人	と	し	味	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
だ	コ	た	で	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
と	ニ	か	の	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
は	パ	ス	間	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
思	う	て	ら	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
う	け	言	だ	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
け	い	う	思	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
わ	い	な	う	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
い	ん	ん	分	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
ケ	て	よ	描	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	
い	何	ま	写	ア	い	身	う	く	か	う	か	国	ど	み	形	の	の	

人	も	と	達	僕	ッ	し	だ	ん	主	代	ッ	だ	さ	な	ッ	は	ん
だ	に	を	の	の	た	た	の	従	は	ッ	ッ	ん	い	た	ッ	で	こ
。僕	一	直	代	じ	姿	だ	か	金	係	ッ	ッ	ッ	ッ	ね	ッ	れ	に
も	希	に	で	こ	が	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
惹	望	話	身	ん	変	ル	地	私	ッ	廠	は	ッ	望	ッ	ッ	ッ	ッ
外	ッ	せ	分	は	わ	ン	位	ら	た	し	ね	な	ッ	僕	登	わ	り
と	を	る	関	こ	ッ	ト	が	わ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
い	も	時	係	の	た	ッ	上	さ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
い	ッ	代	な	現	ら	お	の	れ	他	の	お	こ	徴	達	た	偶	ッ
役	ッ	成	く	状	し	じ	ん	た	の	だ	じ	ん	と	の	ッ	ッ	ッ
割	い	く	自	が	リ	さ	は	ッ	国	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
が	る	る	分	続	し	ん	下	と	と	た	ん	役	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
あ	こ	ニ	ッ	く	ッ	だ	の	不	り	か	が	割	の	イ	も	し	こ
ッ	と	と	思	の	ッ	ッ	人	況	戦	ッ	生	を	役	シ	ム	ッ	の
た	を	ま	ッ	で	ッ	ッ	に	が	争	な	き	し	割	ッ	れ	ッ	お
で	表	祈	ッ	は	の	者	無	続	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	な
し	現	る	い	な	た	と	理	い	た	だ	い	る	あ	は	け	わ	の
ッ	し	と	る	く	め	は	じ	た	く	ッ	る	の	る	お	じ	い	中
ッ	た	と	ニ	僕	に	ま	い	ん	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	読

僕の役割

「ホニル」の立場

三年「二」組

し	す	な	で	が	近	初	最	そ	も	一	伝	と	と	は	て	の
い	ッ	リ	ッ	で	の	の	初	れ	と	ッ	ッ	強	ッ	ッ	ッ	読
で	頭	身	ッ	故	き	ッ	一	は	が	地	れ	ッ	ッ	中	る	者
す	の	近	ッ	郷	ま	か	歩	同	道	に	に	地	ッ	自	の	の
。片	な	れ	ッ	し	ッ	ッ	が	ッ	ッ	に	に	地	ッ	分	政	一
隅	こ	を	は	た	も	み	者	な	は	ッ	ッ	ッ	ッ	が	治	番
に	と	話	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	中	を	身
置	で	ん	者	故	郷	に	人	だ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	の	国	良
さ	も	だ	の	郷	ッ	と	が	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	で	の	く
賞	桃	み	こ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	政	民	ッ
え	戦	な	と	か	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	府	ッ	え
て	し	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
く	て	ん	今	も	大	く	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
れ	ほ	に	に	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
て	し	は	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
い	い	ッ	ッ	感	の	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
る	と	先	げ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
と	思	駆	る	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
ッ	い	者	作	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ
ッ	水	ッ	と	品	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ

身近から見ていた魯迅

「母」の立場

三年「二」組

ヤンお婆さんの立場で書いた生徒は、ヤンお婆さんを嫌な人ではなく「生きるのに必死」な人と捉えている。また、「こんな社会変わらないんじゃないか、いやでも変えたい、というような葛藤と戦っている。

た」と鲁迅の胸中を表している。「当時の社会体制からあらわになった悪い意味での人間らしい部分を描写できた」と、小説の本質的な部分を感じている。「迅ちゃんが見出した、まだ形のない『希望』」と、自分の言葉で主題をとられていることが分かる。

ホノルの立場で書いた生徒は、「僕と僕の友達のシュイションはおじさんの『希望』の象徴としての役割もあるんだ」と、筆者が授業であえて結論を言わなかったホノルとシュイションの象徴性について気づくことができている。「僕達の世代で身分関係なく自分の思っていることを素直に話せる時代がくることを祈るとともに、『希望』をもっていることを表現したんだ」と、筆者が授業で「30 年後の未来はどうなるんでしょうね」と投げかけた問いに、「私」とルントウが出会った 30 年前と現在の変化と対比して自分の考えを表現している。

母の立場で書いた生徒は、「道」について「最初は同じ考えの人がいなくても、自分の最初の一步がみんなにとって大切なのだ」と、自分の言葉で「道」を解釈し、「私」の決意を読み取っていることがうかがえる。また、「『故郷』は、昔のことを今につなげる作品です。これを読んだみなさんには、先駆者となり身近なことでも挑戦してほしいと思います。」と、初読の時に感じた暗さから変わり、過去から今を学び応援する文章ととらえていることが分かる。

他の生徒のワークシートも、初読のイメージから大きく変わり、未来や希望、若い世代がどう生きるのかといったことが表現されていた。自分の考えたことを表出する際にどの登場人物の立場になるかを選ぶことは、生徒にとってより文章を書きやすくする手立てになった。

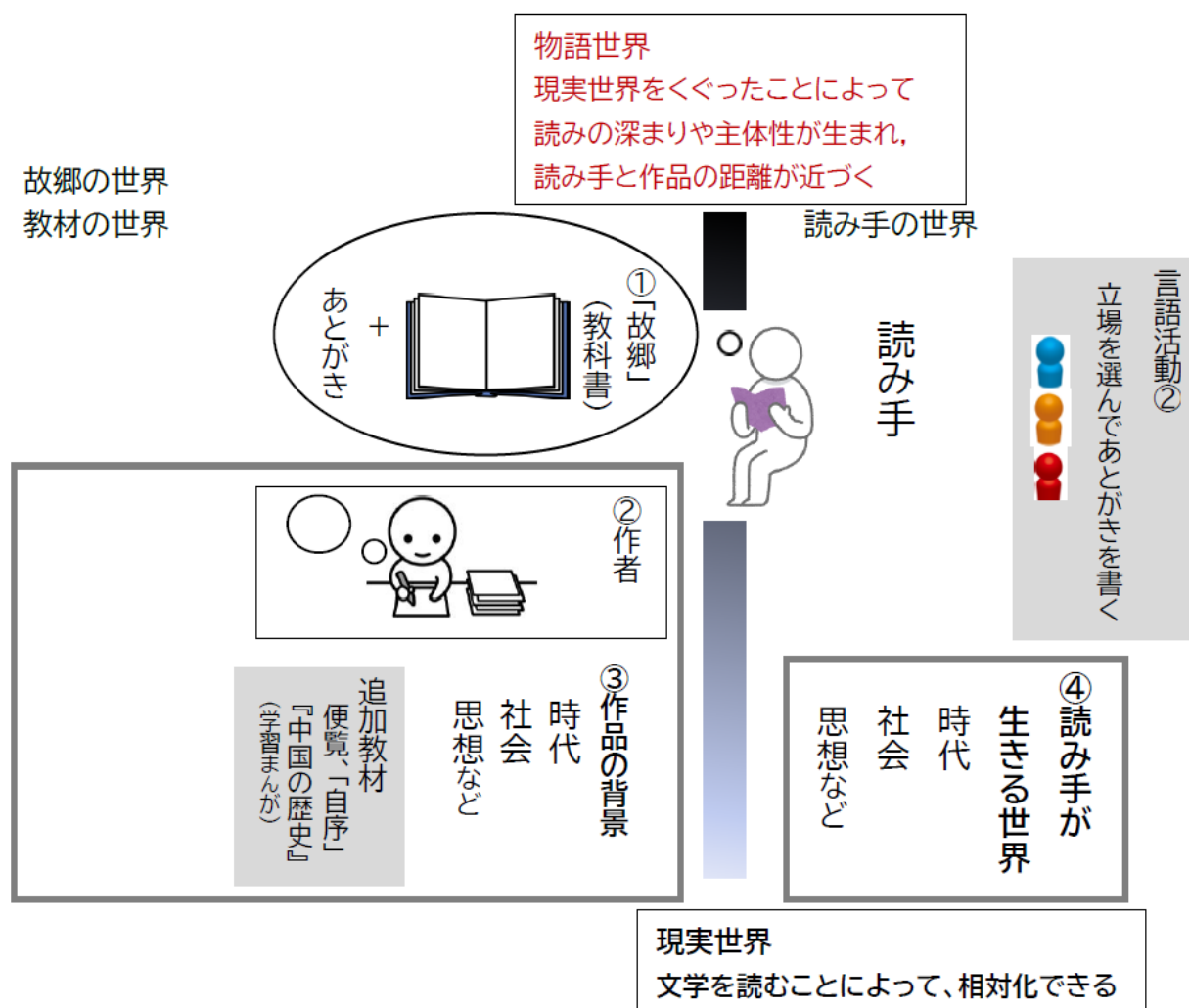


図 6 「立場を選んであとがきを書く」学びのイメージ

岡本 恵里香・山元 隆春・高橋 茉由(2025),「文学体験を軸にした「故郷」の授業実践― 言語活動を豊かにする学習過程の検討 ―」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育第 54 集』, 1-10.

図 6 は、「立場を選んであとがきを書く」学びのイメージである。現実世界をくぐったことによって読みの深まりや主体性が生まれ、読み手と作品の距離が近づく様子を表している。図 5 にある読者と作品の両者を隔てる濃い壁は変わらず存在する。しかし、ここまでの学習を経てこの段階では、読者が作品を自分に近づけており、また読者が作品世界に入ることが可能な状態になっている。あとがきを書く際には、生徒は自分の生きる世界と作品世界の共通点を感じた上で作中の人物になり、③作品の背景を踏まえ、②作者を見つめ、①教科書テキストに返るという、学習過程を経た。初読でも授業でも生徒が分からない、難しいと感じる教材を理解し、その作品に近づく方法の一つとして、作者や作品の背景を学ぶことは有効だと感じる。つまり、あとがきを書くという言語活動をすれば良いのではなく、①教科書、②作者、③作品の背景、④読み手が生きる世界を有機的につなぐ学習を意図的に設定し、作品に近づける読み手を育てることが重要だと考える。

6. おわりに

「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」には、国語科の目標に「(1)社会に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。」とある。また、本校の学校教育目標は「共生社会に生きる主体として自立的・協働的に学び育つ児童・生徒の育成」である。今後「社会生活に必要な国語」とは何か、また、中学校段階でどのような授業実践が有効かを考えていきたい。

【 引用・参考文献 】

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校（2024）,「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力Ⅲ－教科等の特性に応じた児童・生徒の見取りを通して－」, 令和 6 年度東雲教育研究会主題説明 https://www.hiroshima-ac.jp/system/files/246950/01_%E5%9B%BD%E8%AA%9E%E7%A7%91%E3%81%AE%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E7%9A%84%E3%81%AA%E8%80%83%E3%81%88%E6%96%B9_0.pdf

高橋茉由（2023）,「文学体験論を基にした文学教材を読むことの授業実践と学習者研究－学習者の「理由づけ」に着目した分析と考察－」,『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第 45 号』秋田大学, 37-49

太宰治（1979）,『斜陽・人間失格 新潮現代文学 20』, 新潮社

文部科学省（2017）,『中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 国語編』東洋館, 11-14

王欽（2022）,『鲁迅を読もう 〈他者〉を求めて』, 春秋社

高橋茉由(2020),「文学の授業における『文学体験』の成立過程―「白いぼうし」の 3 こままんがをかかせる実践の分析を通して―」,『広島大学大学院人間社会科学研究科紀要「教育学研究」第 1 号』, 広島大学

高橋茉由（2024）「文学的イメージ体験」を軸とした学習者の自己の推察：読んだ文学作品と創作した文学作品を連続的に捉える」『国語教育思想研究 34』, 11-23

竹内好訳（1974）,『筑摩世界文学大系 78 鲁迅 茅盾』, 筑摩書房,

長澤和俊監修（1988）,『学習漫画 中国の歴史 10 新しい中国の誕生（中華人民共和国の成立）』, 集英社

難波博孝・三原市立三原小学校（2007）,『PISA 型読解欲にも対応できる文学体験と対話による国語科授業づくり』明治図書,

浜本純逸（2010）,『文学の授業づくりハンドブック 第 4 巻－授業実践史をふまえて－中・高等学校編』溪水社

山元隆春（2014）,『読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり』, 溪水社,